



国際ロータリー 第2780地区 第9グループ
湯河原ロータリークラブ 週報



2023年2月10日(金) 第2908回例会 形式:対面 天候:雨
合唱:我等の生業

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

先週はお休みを頂き、伊藤副会長に代読をお願いし有難うございました。又 IM はいろいろお疲れ様でした。特に丸塚実行委員には、長くにわたり準備他ご苦労様でした。

先週私は、静岡での冷凍空調配管の実技国家試験で3日間立合いました。実技免許試験は毎年この時期に実施されていますが、受験生の状況は時代に沿って変わってゆくもので、数年前は定年後のおじさん達が結構多かったのですが、最近女性と外人が増えてきました。

実技試験というのは銅管を曲げたり溶接したりネジを閉めたりして与えられた図面上の製品を作るのですが、女性は作る製品はとてもきれいに作りますが、ネジの締めが甘くて加圧検査でガス漏れ等おこして失格になるケースがあります。

旅館業も我々設備業も同じでしょうが、この外国人労働者の採用で皆問題を抱えているケースが出てきているようです。基本的に外国人労働者は仕事熱心で仕事を覚えれば収入も増えるのですが、日本人の若い人はそこまでのハングリー精神が少なく、この温度差が社内に出て困っているようです。オーナー側からするとこういう試験勉強も本来業務時間外でやってもらいたいのですが、それは残業になりブラックと言われ、なかなか試験練習用の時間が確保出来なく経営者側も苦労しているようです。そんな状況からでしょうか、年々技術レベルが下がっているのが実態です。

今後少子化による人手不足は避けられませんが、こういう問題を今後解決してゆかなければならないと感じた3日間でした。

幹事報告

ガバナーより

1. My Rotary 登録率 UP キャンペーン実施計画のご案内

<主 催> 地区クラブ管理運営委員会

<期 間> 2月より4月まで(5月に結果発表)

<内 容> グループ対抗とし、各グループ合計の登録率で

順位(1~3位)を決める。スタートの登録率の差は有るので、伸び率上位の賞も定める。また、上位3グループに入らなくても、クラブの伸び率1位と登録率100%のクラブは表彰する。

2. 会長ILK研修セミナー(PETS)開催のお知らせ

日時:2023年3月11日(土)

9:30~10:00 登 録

10:00 点 鐘

10:00~12:25 本会議 1 基調講演(午前の部)

12:35~13:25 昼 食 (食後 AGE 次年度会長との打ち合わせ)

13:35~14:45 第1セッション

『クラブ会長の役割と責務について』

14:55~15:55 第2セッション

『役に立つロータリークラブにするには』

16:10~17:30 各委員会報告

17:45~19:00 懇親会

場所:藤沢商工会館ミナパーク 3F&5F 会議室/6F 多目的ホール

登録料 1クラブにつき 10,000円 ※2月28日までに予めご送金ください。

連絡事項 なし

出席報告

会員	23 名	出席率	85.00 %
欠席	6 名	前回の修正出席率	80.00 %
(免除者)	3 名	前々回の修正出席率	84.21 %
ゲスト	1 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	0 名		

ゲスト 日浦裕子 様(野村證券小田原支店 支店長)

結婚記念日 伊藤伸之君(2/15)
 入会記念日 吉村行正君(1年・R4.1.28)
 青木義美君 先週例会欠席すみません
 伊藤伸之君

結婚50年、金婚式を迎える事が出来ました。すべて連れ合いの忍耐と寛容のおかげです。

西山敦君

2月3日節分祭は残念ながら豆まきは中止し式のみを役員のみで行いました。

石川浩子君

商工会女性部に緑綬褒章が授与されましたので、2月8日にお祝いの会がホテル城山で盛大に行われました。

吉村行正君

湯河原ロータリークラブに入会して1年が経ちました。これも皆様のご指導があったからこそと思っております。今後も精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

卓話 石川 博 君

代講 野村證券 小田原支店 支店長 日浦 裕子 様

「世界の中の日本」



本日は貴重な卓話の機会を頂戴しまして誠にありがとうございます。今回は 2022 年 2 月に前任の大村よりインフレをテーマに皆さまにお話しをさせていただきました。その後毎日のように“値上げ”のニュースが日々取り上げられる状況となりました。

2022 年 1 月から発動し始めた激変緩和措置も、4 月には総

合緊急緊急対策へとつながり、ガソリンも1リットル 200 円台の高騰が続く中で 170 円程度まで抑制されました。その後さらに昨 10 月の経済総合対策で物価高への対策等が閣議決定されています。

【2022 年のインフレ動向の振り返り】

インフレ率というのは前年に比べてどれくらい物価が上昇したかを%で表し、毎月主要国で発表されています。

日本では総務省が先月(1月20日)に発表した昨年12月消費者物価指数は前年同期比+4%と前月の上昇率+3.7%を上回り、1981年以來41年ぶりの4%超えで大きな話題となりました。

海外の情勢を確認してみますと、米国では顕著なところでは対前年比8%程度の上昇、欧州では10%程度の上昇となっています。

そしてインフレを抑えるために、世界同時利上げが急ピッチで進みました。同時利上げを行う中、主要国では日本のみ金融緩和を維持した政策を継続していました。

日本のインフレ率はなぜ相対的に低いのか、また今後欧米並みになるのでしょうか。日銀の金融政策は今後どのように変化をするのでしょうか。

【インフレの中身】

海外と比較した日本のインフレの特徴が二点あると考えています。

一つ目に、先ほど相対的に低いインフレ率であるように日本のインフレは相対的に進行のスピードが遅いという点

二つ目に、インフレのすそ野が相対的に狭いという点です。

欧米では「家賃」と「サービス価格」がインフレ率を押し上げるのに大きく寄与していますが、日本ではそのような動きがはっきりと見て取れないことが特徴として挙げられます。

インフレへの対応を考えるうえでも、その症状が欧米と異なるため、処方箋も異なるという事です。

【今後のインフレ見通しと金融政策】

米国は金利を急ピッチで引き上げた事で、景気を減速させ、需要を抑え込む効果が出始めています。

この春には利上げを停止するという予想も拡がっていて、年後半以降は金利引き下げが予想されます。

日本と米国の金利差が縮んだ事で昨年秋以降、足元は円高に動いております。

【日本の経済動向に注目】

今年は3つの点で日本は相対的に良い環境と考えられます。

一つ目にインバウンド需要です。中国のゼロコロナも緩和され、今後外国人観光客による消費が期待できます。

二つ目に日本の個人消費です。日本は主要国と比較しリーマンのタイミングが遅かったため貯蓄率が高止まりしている点、三つ目に先ほど前段でお伝えしているインフレ率が低下傾向がみられる事と、円高になっている事により輸入物価も下がる期待があるという点です。

以上三点のポイントを踏まえながら、年前半は低下傾向にあるインフレ率が引き続き低下傾向を迎えるかを、経済指標を通じて確認していくことが大事だと思いますし、それに伴う主要国の金融政策の転換点・転換時期が注目点になると考えています。

(文・編集:石川浩子(2月会報担当)／クラブ会報委員会)